

令和2年度 学校評価シート（自己評価）

令和3年3月

文京学院大学文京幼稚園

1. 園の教育目標

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・誠実 （いきいき元気に遊ぶ子） ・勤勉 （いっしょうけんめい頑張る子） ・仁愛 （やさしく助け合う子） |
|--|

2. 具体的な目標や計画（令和2年度重点目標）

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 人とかかわることを通して、“思い合う心”を育む。 2. 言葉による伝え合いや、体やものを使って表現する喜びから“豊かな心”を育てる。 |
|--|

3. 評価項目の取り組み及び達成状況

評価項目	結果	結果の理由
1 - ①自らが挨拶しようとする気持ちを育てる。	A	教員自身が手本となるよう心掛け、挨拶の心地良さを伝えるようにした。上手に挨拶できたときは言葉にして褒めるようにした。
1 - ②自分が人からしてもらって嬉しいことは、人にも同じようにする体験を積み重ねる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの行動に対して、教員が感謝を伝える事で子ども達自身も他児に同じようにすることが多かった。 ・誰かにしてもらったことが嬉しいとの場面があった時は集まりの場で伝え、考える機会を作るようにした。
1 - ③友達と関わる中で、互いの思いや考えを知り、それぞれの良さを認め合う。	B	子ども同士の関わりの中で、個々の考えや思いを仲介しながら、相手の良さに気付けるよう意識した。協同的な関わりができる活動を取り入れ、友達関係が深められるように配慮した。
2 - ①自分で考えたことを伝えたり、友達の話の聞いたりしながら、言葉による伝え合いを楽しむ。	B	遊びや活動の中で、子どもが自身の考えを言葉にして伝えたり、相手の話を聞いたりできるように援助した。個人差を考慮し、子どもに合わせた対応が必要だった。
2 - ②自分が感じたままに体を使って心を開放し、表現をする喜びを味わう。	B	表現を行うゲームや活動は年間を通して取り入れた。各々の表現を認めることで、子どもが楽しんで表現できるようになった。
2 - ③自分で満足するまで取り組むことや、友達と一緒に工夫や協力し“作り上げること”を多く経験する。	B	自分がやりたいと思ったことを存分に楽しめるように様々な材料や時間を十分に用意した。

4. 教員自己評価結果及び本園の今後の課題

項目	結果	評価結果及び課題
1 保育内容の工夫	B	コロナ禍の保育は、「密」を避けることを意識しながらも、友達同士の関わりは持てるよう工夫した。遊びや帰りの集まり等の中で「体を使って表現する」ことも自然にできるよう機会を増やした。
2 環境構成の工夫	A	子どもが興味を持った遊びを認めて、共感することを大切にした。自ら考えて遊びに取り組める工夫、じっくり遊びを継続できる環境を工夫した。コロナ感染防止のため、遊具の消毒等を行ったり配置に気を付けたりするなど、子どもが安全に過ごせるよう配慮を続けた。
3 幼児への対応（幼児の理解）	A	子どもの性格や家庭環境、発達状況などを踏まえ個々に合わせた対応を工夫した。学年チームの教員同士が連携し子どもの情報交換をすることでそれぞれの良さを認めたりすることができた。

4	保護者への対応	B	“ゆとりの時間”がなかったため、機会は少なくなったが、降園時に園での子ども様子を伝えるように心がけた。コロナ対応で例年とは同じようにできない実情を踏まえ、敢えてコミュニケーションを意識した。
5	研修と研究	B	園内研究では「園の教育課程作成」に取り組んでいるが、教頭を中心に計画的に時間を確保して研究を進めてきた。小グループでの話し合いを定期的に取り入れ、3学年の発達段階の共通理解が深まっている。個人を高めるための研修は、「救急救護訓練」受講に留まった。
6	安全管理	A	・子ども自身が見通しをもって生活できるように危険なことはクラス全体で意識できるようにしてきた。・「遊具点検」などを定期的に行い、危険に繋がる故障箇所は早めに業者に修理依頼をしてきた。 ・降園時、駐輪場へ向かう際に危険がないよう、保護者への声掛けを意識的に行うようにした。
7	職場環境 学年チームの関わり	B	学年の子どもたちに合った保育が進められるように、学年の教員同士で情報交換を多くし、こまめに話し合ってきた。 学年内で、仕事内容に優先順位を付け分担して取り組むことにより、効率化を図ることができた。

○結果について

A	十分達成されている。
B	達成されている。
C	取り組まれているが、成果が十分でない。
D	取り組みが不十分である。

5. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者アンケートの結果と、教員各個人の自己評価から、おおむね目標は達成できていると考えられる。「重点目標」を達成するための具体的な取り組みについては、昨年度の反省点が活かされ、さらに園内研究が進んでいくことにより意識が高まっていると言える。 ●保育内容の表現領域については、日常の中で、子どもが自然に表現を楽しめるような工夫が少しずつされているが、「表現についての多様な意識や理解」が持てるよう、令和3年度も重点目標に残していく必要がある。 ●保護者連携については、個人に対するコミュニケーションの仕方を工夫しているが、「保育に対する理解」「園での子どもの成長を知らせる」ための方法を進めていくべきである。

6. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
●コロナ禍の保育について	・令和3年度も「コロナ禍」での保育が続いていく。その中で大切なことは、園児が自分で自身の体を守るよう内容を理解した上で生活習慣に取り組むこと、健康な体を養うことだと考える。その内容が達成できるよう重点目標に掲げる。
●表現領域について、様々な取り組みをする。	・表現は「保護者への発表」だけではなく、日常の遊びや活動の中で、体を使って表したり、ものや道具を使って描いたり作ったりするなど、様々な方法が考えられる。令和3年度も、保育の中で表現することについて、教員一人ひとりが理解を深めて様々な試みをしていくことを目標に、重点目標に取り上げる。
●保護者との連携に努める。	・保護者とのコミュニケーションについて、様々な機会を使い、園での成長の姿や心の動きを伝えたり、家庭での変化などを聞いたりしていく。・保護者が園の方針や考えに対して理解を深められるよう、保護者会の持ち方や文章などもより工夫していく。
●園内研究と、個々の研修に取り組む。	・「教育課程作成」は園内研究で継続して取り組んでいく。 ・自身を高めるための研修は、外部研修会が実施されていない場合は、「オンライン研修」を受けるようにしていく。